

第 44 回埼玉地区教会全体修養会 報告

8月26日～27日に開催された第44回埼玉地区教会全体修養会が恵みの内に終了した。概要を報告する。

- I 主題 「主にある交わりを深めよう」～生きた石として用いられ～
(副題は、～一つの舟に乗り合わせ～ から変更がありました。)
 - II 講師 楠本史郎先生 (北陸学院大学学院長)
 - III 日程 2019年8月26日(月)～8月27日(火)
 - IV 会場 国立女性教育会館(埼玉県嵐山町)
 - V 内容
- *8月26日(月)*

1. 開会礼拝 13:30～14:00 大会議室

司 式 小林 眞 牧師 (岩槻教会)

奏 楽 今村静子 (埼玉新生教会)

聖 書 コリントの信徒への手紙 二 8章1節～7節

説 教 「教会の交わりのあり方」 小林 眞 牧師

讃美歌 21-390番 「主は教会の基となり」

21-402番 「いともとうとき」

21-29番 「天のみ民も」

出席者数 33教会 127人

席上献金 103,769円 (この献金は地区会計の伝道献金のためお献げします。)



説教を語られる小林 眞牧師と聴き入る会衆

2. 講演① 14:10~15:30 大会議室 (出席者数 127 人)

演題 「私の信仰、教会の信仰」

講師 楠本史郎先生

参考聖書箇所 コリントの信徒への手紙 一 15章3節~11節

レジュメ

「主にある交わりを深めよう 生きた石として用いられ」

2019年8月26日(月)~27日(火) 埼玉地区教会全体修養会 北陸学院・楠本史郎

I 「私の信仰、教会の信仰」

1. はじめに

2. 「私の信仰」と「教会の信仰」

- 1) 私の信仰 「私はこう信じる」=基準は自分 → 教会は同じ考えの人の集まり？
- 2) 教会の信仰 「教会はこう信じる」=基準は教会 → 教会の信仰告白を受け入れ、教会の一員となる。そこには、さまざまな人々が集う。受洗試問会の意味
- 3) 「私の信仰」が先にあり、同じ考えの人が集まって教会ができる？
「教会の信仰」が先にあって、そこに加えられた人々が教会を形作っていく

3. パウロから コリント一 15:3 以下

- 1) 3節「わたしも受けた」 パウロが伝え、コリント教会が信じた信仰は、パウロの思想ではなく、最古のエルサレム教会の信仰
- 2) 「教会の信仰」の中身 3節b-5節 ①キリストの十字架と ②復活 ある青年の信仰
- 3) パウロが伝え、全ての教会が信じるのは、「空の十字架」の信仰。最初の教会に始まり、パウロが伝え、世界中に広まった共通の信仰。それが、パウロを通してあらわされた神の恵み 10節

4. 伝道者は「教会の信仰」に生かされ、これを伝える。輪島教会での経験から

- 1) 伝道者の陥る罠と誘惑。「自分の信仰と努力によって教会を盛んにしたい」
- 2) 傲りを打ち碎かれる主
- 3) 碎かれてこそ、「教会の信仰」に生きる人々に支えられ、励まされる。福音の実力
- 4) 教会に仕え、「教会の信仰」を伝えていく

5. 「教会の信仰」に生きる

- 1) 教会の信仰により、教会の主に向き合い、福音のスケールに気づかされる
 - ① 地方教会は、「村のよろずや」。福音の空間的スケール。空の十字架を見つめて
 - ② 地方教会は「林業」。福音の時間的スケール。主の御業を楽しみに待つ

2) 主のなさる御業を見つめ、今ここでなすべき業に集中する

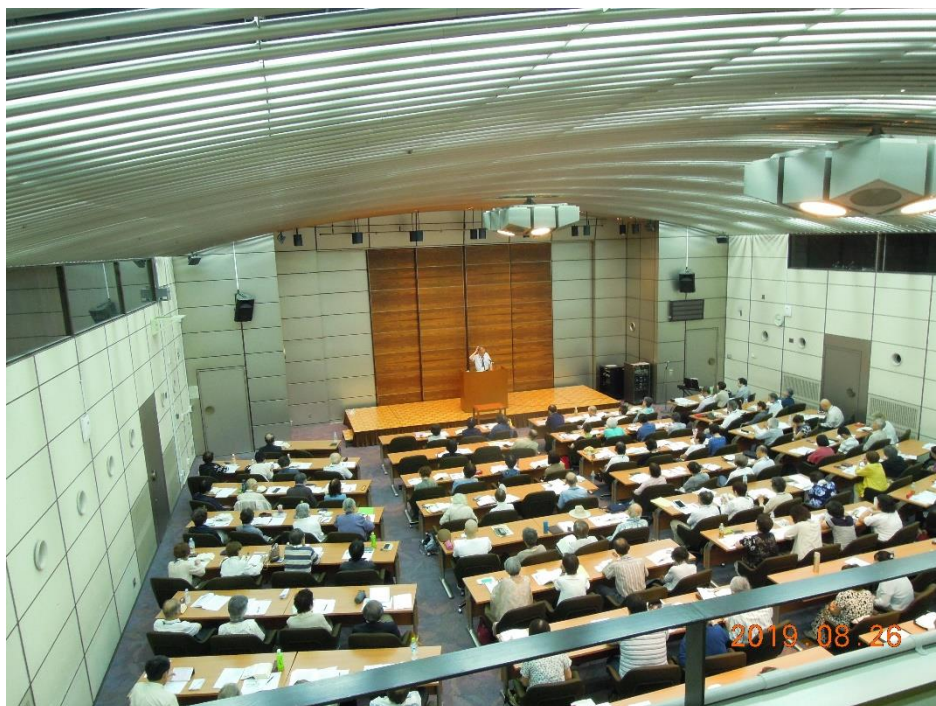
6. おわりに

「私が」ではなく、「主が」教会を通してなさる救いの御業を見つめる。教会という大船に乗り、安心して共に、嵐の世の海を進んでいく。

以上



演壇から親しく語られる楠本史郎先生



広い大会議室の全景

3. 分団討議 16:15~17:45

1分団5人~7人の小さな分団を19個持った。それぞれ活発な意見の交換が行われ、別教会の教会員どうし親しく交わりが深められた。

4. 夜の自由参加のプログラム 19:30~21:00

① 「Ave verum Corpus」を4部合唱してみよう (音楽室)

宗教歌曲のソプラノ歌手として活躍なさっている民秋 理さん (八千代台教会/信徒) から指導を受け、有志50名が混成4部合唱に挑んだ。



練習に励む皆さん



指導する民秋さん

② ハーブティーを楽しむカフェ（調理室）

数種類のハーブティーと茶菓を用意し、自由な語らいの場を提供した。



写真から受ける印象よりはるかに盛況であった。

③ 聖地の写真パネルを見よう（試食室）

小林 眞牧師が聖地旅行の際撮影した写真パネルと豪華版写真集（白川義員氏）を飾り、自由に見てもらった。



来訪者に説明する小林牧師（右）

8月27日(火)

5. 講演② 9:00~10:25 大会議室(参加者数104人)

演題 「生きた石として用いられ」

参考聖書箇所 ペトロの手紙 一 2章4節~6節

レジュメ



II 「生きた石として用いられ」

1. はじめに

「教会の信仰」によって育てられ、「私の信仰」が成熟していく

2. 石垣積みのワークキャンプで

- 1) 石工職人との出会い 色々な石を生かし、組み合わせて石垣を積んでいく見事さ
- 2) 教会は石垣。さまざまな形の石を組み上げて、建てられていく。実際は？

3. ペトロから ペトロ 2:4-6

- 1) 3-4 節 十字架と復活の主キリストが教会の土台石。捨てられた石が生きたかなめ石
- 2) 5 節 a 私たち一人ひとりが教会を形作る石。それぞれ形も大きさも違う石を、名石工職人の主が組み上げていってくださる
- 3) 5 節 b 霊的な家である教会の働き = 「神に喜ばれる霊的ないけにえを、イエス・キリストを通して献げ」ること。つまり礼拝

4. 教会は、主を礼拝する群れ

- 1) 礼拝は教会形成 主のみ言を聴き、聖霊によって一つにされて、教会が組み上げられていく。この小さな石こそが、ここに必要とされている
- 2) 礼拝は伝道 主のみ言によって養われ、喜んで、福音が伝えられていく。礼拝が喜びとなっているだろうか。他の石が加えられることを喜んでいだろうか
- 3) 礼拝は牧会 礼拝が日々の生活を整え、生き活きとさせる。牧会は、ただのお世話ではなく、礼拝生活ができるよう互いに配慮し、助け、支え合うこと

5. 教会に加えられ、「教会の信仰」に生かされるとき、「私の信仰」が成熟していく

- 1) キリスト教は「生活習慣教」。毎週の礼拝が、生活に一本の筋を通す
- 2) 祈りの集いの大切さ。主の日の礼拝へと共に祈りを合わせる
- 3) 個人の祈りとみ言に聴く生活 日々聖書に親しみ、祈る。「日毎の糧」「ローズンゲン」などを用い、「私の信仰」が成熟していく。それが教会を支える力となり、人を教会へと招き、信仰の証しとなる
- 4) 成熟した「私の信仰」は個人主義ではなく、必ず教会の礼拝生活に結びついて

いる。教会のかなめ石でいます主キリストの上に据えられるとき、一人ひとりが
生きた石となり、なくてはならない大切な存在とされ、用いていただける

6. おわりに

生きた石として用いられる幸いを共に喜び合おう。

以上



講演に聴き入る皆さん

6. 質疑応答と全体会 10:25~11:30 大会議室

司会 市川 浩（飯能教会／信徒）

*休憩 10:25~10:40 の後、30 分間、質疑応答を行った。

*その後、11:10~11:20 に参加教会の紹介を行った。

司会者が教会名を呼び、その教会からの出席者が立つか手を振るようなアピールをした。

*さらに、前日夜の「音楽希望」のメンバーによる「Ave verum Corpus」（モーツァルト）混成 4 部合唱が披露された。

*障教懇委員会から、9 月 23 日（月／祝）開催予定の「アーモンドの会」のアピールがなされた。

7. 閉会礼拝 11:30~12:00 大会議室

司 式 栗原 清 牧師

奏 楽 今村 静子 (埼玉新生教会)

聖 書 申命記 10章12節~16節

説 教 「幸いを得る」 栗原 清 牧師 (武蔵豊岡教会)

讃美歌 21-55番 「人となりたる神のことば」

21-516番 「主の招く声が」

21-90番 「主よ、来たり、祝したまえ」

以上をもって全プログラムを終了した。

天候にも恵まれ(あまり暑くなかった)、怪我をした方も無く、たくさんの恵みに触れた修養会であった。感謝!



報告者：第44回教会全体修養会委員会 書記・会計 市川 浩 (飯能教会)